



## ●ギャラリートークまであと2日

3月1日開催の「第1回色彩教材ギャラリートーク」まで、あと2日になりました。色彩教材研究会は、色彩教育に関する教材制作に加え、“Color Playing!”のキャッチコピーの如く色を楽しむというテーマに基づき、自由な発想・着想からの色彩教材作品や研究成果を発表・共有する場を設け「色彩教材ギャラリートーク」と名付けました。

第1回となる色彩教材ギャラリートークには、15件ものテーマが集まりました。いずれも非常に興味深いテーマであり、将来の学会発表やカラーデザイン発表、そして論文文化に繋がる可能性を秘めています。

ギャラリートークという初めての試みなので展開が読めませんが、そのワクワク感も楽しみになると思います。

・日時：3/1（土）13：00～16：30

・場所：DIC 本社（東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル（DICビル）

・13：00 開会（開場 12：30）

・参加費：一律¥1,000（会員・非会員問わず、学生は無料）当日聴講も可能です。

※以下 URL より詳細をご覧ください。

（<https://color-science.jp/society/250301event-2/>）  
（吉澤陽介 主査より：031）

## ●近松門左衛門の浄瑠璃の色名ー2

「新潮日本古典集成」近松門左衛門集から浄瑠璃「曾根崎心中」と「心中重井筒」の中に使われた色名の用例を拾い出してみた。

「曾根崎心中」に使われている色名の用例は大変少なく、女物の色は、「白無垢」、「黒小袖」、「浅黄染め」だけ。髪の色は「白髪町」、「黒髪は」、「白々し」の三用例に過ぎない。自然の色は「白む夜明けの」の一用例。その他に「紺屋」の一用例が見られるだけである。全てで4色名、8用例に過ぎない。

浄瑠璃「心中重井筒」では、女物の色として、「金紗」、「ねずみいろ」、「てり柿」「うす柿」、「柳煤竹」、「緋無垢」、「緋縮緬」、「緋緞子」。男物の色として、「浅黄」、「みる茶」、「木賊色」の用例が見られる。顔色などに「真っ黒に焦げる」「顔も手足もくれないの」、「朱に染まった」が見られる。その他では、舞台になることから、「紺屋」、「紺屋の徳兵衛」、「紺屋の糊」、「紺屋の妻」、「紺屋の型」などが見られ、自然の描写には「霜の白み」が使われている。

浄瑠璃「心中重井筒」には、紺、緋、白、黒、ねずみいろ、くれない、朱、てり柿、うす柿、金、柳煤竹、みる茶、木賊色、浅黄の14の色名が登場し、23用例が見られる。

（永田泰弘）

## ●環境色彩の設計と評価の方法ー2

### ◎類似の調和と対照の調和

色彩調和はこの二つに絞ることができません。建築物の配色は類似の調和を中心に展開することが大切です。

### ◎色彩調和の四原理

アメリカの色彩学者ジャッド博士による、親近性の原理、秩序性の原理、共通性の原理、明瞭性の原理の存在を読み取りましょう。

### ◎建物の慣用色の把握

日本の建物の外壁に使われている色は、はっきりとした傾向がみられます。暖色系の低彩度色です。これらの慣用的な色から逸脱しないことも大切です。

### ◎642の彩度規制

日本の町並みの調和を壊している要因のひとつが高彩度色の使用にあります。642の彩度規制とはR・YR系の色の彩度を6以下、Y系の色の彩度を4以下に、その他の色相の色の彩度を2以下にするという基準です。

### ◎緑の彩度を超えない色

町の中でも木々の緑は人々を幸せにする要素です。その緑の色の彩度を超える色が近くにあると自然の緑の美しさを阻害します。緑の彩度を超えない外壁色や屋根の色を使いましょう。（続く）  
（永田泰弘）